

令和7年度 文京区立林町小学校 授業改善推進プラン

算数

学年	指導上の課題の分析	授業改善の具体的方策	評価（成果と課題）
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○分数の大きさや時間、図形の名前の問題では、80ポイント以上と高い値を示したが、全領域の正答率は、64.7ポイントだった。また、他学年と比べても数ポイント低い値だった。 ○「測定」領域の長さや量の単位変換問題が35.4ポイントと低かった。 ○「データの活用」領域のデータを整理して表やグラフで表す問題が16.2ポイントと大きく平均を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の定着を図るために、授業の始めに前時の確認をしたり、単元の終わりでまとめや振り返りをしたりする。また、児童の気付きや考えを大切にしながら、できるだけ発表、発言の機会を多く設定するとともに、本時の目標に迫るような焦点化した発問をする。 ○身の回りの量について、その概念及び測定の方法を理解させるために、長さや量についての感覚を教育活動全般の中で豊かにしていくとともに、基本の単位（cmとmmやL、dL、mL）の関係をしっかりと定着させる。 ○データの種類を整理するときには数を数え間違える等のミスをしている児童が多いので、一つ一つチェックしながら整理したり、確認をしたりすることができるようにする。また、統計的な問題解決のよさに気付き、データやその分析結果を生活や学習に活用しようとする態度を身に付けさせていく。 	
4年	<ul style="list-style-type: none"> ○全領域の正答率は、72ポイントで高い値を示した。特に、分母が同じ分数同士の計算では、90ポイントを超える高い値を示したが、3桁×2桁のかけ算で、52.3ポイントだった。 ○「数と計算」の領域で、加減法の文章問題を図に表したり、未知数を□として、立式したりする問題で25.7ポイントと大きく平均を下回った。 ○「データの活用」領域のデータを整理して表やグラフで表す問題が34.9ポイントだった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○3桁×2桁のかけ算では、計算の順序やかけ算九九、繰り上がりのたし算をしっかりとできるようにする必要がある。それを、繰り返し取り組ませることで定着させていく。 ○文章内容を読み取り、数量関係を図や式で表すことができるようにすること、未知数を□で表し、計算のきまりを使って□の値を導き出すこと等、できるようにするために、文章内容を想起させたり、図をかく練習や読み取る練習を繰り返させたりしていく。 ○データの種類を整理するときには数を数え間違える等のミスをしている児童が多いので、一つ一つチェックしながら整理したり、確認をしたりすることができるようにする。また、統計的な問題解決のよさに気付き、データやその分析結果を生活や学習に活用しようとする態度を身に付けさせていく。 	

学年	指導上の課題の分析	授業改善の具体的方策	評価（成果と課題）
5年	<ul style="list-style-type: none"> ○全領域の正答率は、73ポイントで高い値を示した。特に、同分母同士の足し算・引き算では、90ポイントを超える高い値を示したが、小数の四則演算では、60～70ポイントだった。 ○「図形」の領域の中の直方体等の空間図形の構成要素の位置関係の読み取りでは、47.6ポイントと大きく平均を下回った。 ○「データの活用」領域のグラフから読み取る問題が 59.2ポイントだった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小数の概念を理解するとともに、小数が整数と同じ仕組みで計算できることを理解させる。特に、2桁×2桁のかけ算や、3桁÷2桁のわり算を正しく計算できていない児童が多いので、繰り返し学習していく。 ○粘土玉やひごを使って骨格模型を作る活動を通して、頂点や辺、面の位置関係を把握させるとともに、対応する関係を正しくとらえることができるようにする。 ○統計データの特徴（1目盛りの値、傾き、最低・最高等）を正しく読み取れるようにする。また、統計的な問題解決のよさに気付き、データやその分析結果を生活や学習に活用しようとする態度を身に付けさせていく。 	
6年	<ul style="list-style-type: none"> ○分数の計算、図形の角の問題では、80ポイント以上と高い値を示したが、全領域の正答率は、66.1ポイントだった。これは、他学年と比べても数ポイント低い値だった。 ○「変化と関係」領域での、割合、百分率を求める問題が、39.8ポイント、人口密度を求める問題に至っては、12.2ポイントととても低い値だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の定着を図るために、授業の始めに前時の確認をしたり、単元の終わりでまとめや振り返りをしたりする。また、児童の気付きや考えを大切にしながら、できるだけ発表、発言の機会を多く設定し、集団で考えを練り上げることができるようにするとともに、本時の目標に迫るような焦点化した発問をする。 ○「変化と関係」領域では、比例の学習から割合、単位量当たりの大きさ等、ともすれば、公式や形式だけを覚えようとしがちである。しっかりと理解するためには、2つの数量がどのように伴って関わっているかを丁寧に学習していく必要がある。そのために、線分図や表、グラフの読み取りを定着させ、正しく立式させていく。 	